

歴 史民俗資料館だより

No.39
文化生涯学習課
資料館係 (☎ 58-5111・75-3111 代表)

「真壁伝承館」歴史展示資料について

9月に開館となる真壁伝承館で展示予定の新資料について紹介いたします。

写真は、一般に「足軽胴（あしがらどう）」と呼ばれる、鎧（よろい）の一種です。足軽胴はその名の通り足軽と呼ばれた兵士が着用したもので、簡素なつくりですが、その分軽く、敏捷性に優れています。

では、この足軽胴をよく見てみましょう。まず、胴の前後に五段の梯子（はしこ）が描かれています。これは合印という敵味方を判別するための文様です。また、内部には「百九十六」という字が朱書きされています。これらから、この足軽胴は江戸時代の後期に真壁地域を支配していた笠間藩主牧野氏のお貸し具足であった可能性が高まりました。

お貸し具足とは戦（いくさ）の際に大名が配下の兵士たちに貸し与える鎧兜（よろいかぶと）のことで、中には番号が



足軽胴（歴史民俗資料館蔵）

記されることもありましたが、合印の五段梯子は牧野氏の家紋の一つです。

実は、この足軽胴とそっくりのものが伝わっている家が市内にあります。また、合印は違うものの、同様な作りのものをお持ちの方もいます。他にもまだ眠っているものがあるかもしれません。もし、皆さんの周りで見つけたときはぜひ、資料館にも教えてください。

重要伝統的建造物群保存地区における文化財建造物の震災被害調査について

東日本大震災により、真壁地区の伝統的な建物は大きな被害を受けました。

市では4月末から1棟ごとの修理にむけた専門的な調査を行っています。調査は伝建地区の先輩である石川県金沢市、佐賀県鹿島市、三重県亀山市、山口県萩市、福岡県うきは市などから職員の派遣協力を得て、文化財の価値を守る修理を進めたいと考えております。



震災被害調査の様子

本調査をもとにした計画により、伝統的な建物が復興できるよう、努めます。

新資料・新史料の紹介



茨城県立歴史館学術調査報告書IX 「茨城の狛犬」

この度、茨城県立歴史館から刊行された「茨城の狛犬」は、県内の木造、陶器、土器製狛犬の年代や特徴をまとめた資料集で、桜川市も調査に協力しました。市内では西小埜・二所神社（室町時代）と磯部・磯部稲村神社（室町時代）の木造狛犬、真壁町古城の真壁城跡（戦国時代）の土器狛犬を掲載。

狛犬は仏像や神殿の前に置かれた獅子像（ライオン）が起源。後に神社に取り入れられ、中世までは神を守るよう社殿の中に置かれました。戦乱や平和な時代を反映したデザインは、歴史の奥深さと時代の造形美を表現しています。

資料は真壁伝承館の収蔵・閲覧図書となる予定です。

今後、新資料館では、展示とともに、様々な調査成果を「知的財産、新たな地域資源」と位置づけ公開・活用いたします。

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ



あなたの描く想像を現実により綺麗に より美しくあなたと感動を繋ぐ存在でありたい。

株式会社 デジタル印刷

TEL.0296-54-2626(株) FAX.0296-54-2724